

令和6年度 第4回 葵西小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月14日（金） 午後2時00分から午後4時20分まで
- 2 開催場所 葵西小学校 2階 会議室
- 3 出席委員 古山 照美、石井 朋子、新木 智子、辻岡 和代
- 4 欠席委員 長谷川 良樹、村井 レティシア、宮本 礼子
- 5 オブザーバー 嶋田 哲也（北部協働センター）
- 6 学 校 水野 希樹（校長）、古橋 智一（教頭）、夏目千香子（教務主任）、
廣瀬 高志（生徒指導主任）、工藤 敬子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 工藤 敬子
- 10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、辻岡委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

- 11 協議事項
 - （1）本校児童の学習・生活について
 - （2）学校評価アンケート調査の結果を受けて
 - （3）令和7年度学校運営方針の承認
 - （4）学校運営協議会の自己評価

12 会議記録

司会の教頭から、委員総数7人のうち4人の出席があり過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）本校児童の学習・生活について

議長の指示により、教頭から前回の意見の確認と、家庭や地域で取り組みそうなことについて考えてほしい旨の提案があり、委員からは以下の発言があった。

（生活リズムについて）

- ・ 子供たちが生活リズムを理解できるよう、親子で1日の時間の使い方を確認してみたらどうか。（古山委員）
- ・ 生活の見直しは大事。睡眠時間が足りているかという点も大切。前回、親が望む起床時間と子供の実際の起床時間が異なることが話題になった。（辻岡委員）

（交通安全について）

- ・ 風の強い日に、帽子を追い掛けて車にはねられた事故の報道を聞いて、朝、子供たちに「今日は風が強いから気をつけて」と声をかけることが大切と感じた。忙しくても、何か呼び掛けて送り出すことで、命を守ることにつながる。（石井委員）
- ・ 高学年になると一人で行動することが増え、夕方の下校時にも地域で走っている子をよく見かける。自分の安全は自分で守る意識が必要。家庭や地域でもひと言「走らないように」「危ないよ」と声を掛けてあげられたらいい。（新木委員）
- ・ 運営協議会として何ができるのか、担い手をどう確保するかについて考える必要がある。アンケート等を活用し、次回以降も議論を深めていきたい（辻岡委員）

（2）学校評価アンケート調査の結果を受けて

議長の指示により、教務主任から別紙資料に基づき説明があり、学校評価の集計結果の考察について提案された。また、生徒指導主任からいじめ対応についての報告があった。委員からは以下の発言があった。

（学校評価アンケートについて）

- ・「自分を褒めてもいいと思える時がある」項目で、児童の数値は控えめである一方、保護者の数値が高いことから、家庭で子供を褒める機会が多いと推察される。褒めることは難しいが、保護者が子供を褒めることで、子供が自信を持ち、自分の良い点を見つけられるようになると思う。（石井委員）
- ・児童の94%が「友達のいいところを知っている」のは素晴らしい。今後はそれを相手に伝えることで、自己肯定感や自己有用感を高めていけると良い。「私は進んで体を動かしている」項目で、子供は90%近くが実践していると感じているが、保護者は67%と低く認識しており、保護者には見えていない部分がある。（辻岡委員）
- ・児童の自由記述には、子供たちができるようになったことが書かれているが、何をしたからできるようになったのかが分かると、親も具体的に何をすれば子供が勉強に集中できるかヒントを得られる。中学年の読書量が増えた背景には、以前はテレビやゲームに費やしていた時間を読書にあてるようになったのではないかと推測する。（古山委員）
- ・自由記述を見ると、低学年では「人に優しくできるようになった」「時間を守れるようになった」など、生活面での成長を自覚していることが分かる。高学年では「相手の気持ちを考えて行動する」「ボランティアに進んで参加する」などの記述があり、学校生活をよく考えて過ごしていると感じる。（新木委員）
- ・低学年の子供が「廊下を静かに歩くようになった」と書いている。これは子供自身の努力の成果であり、学校側の取り組みが十分に伝わっている証拠であり、親からは見えない部分での取り組みや手立てがあると感じる。（石井委員）
- ・自由記述から多くのことを感じ取れる。国語や算数などの認知能力だけでなく、心の部分、非認知能力においても、成長を実感していて素晴らしい。学校の取り組みに対して、親として感謝の意を表したい。（辻岡委員）
- ・年4回の参観日と運動会しか子供の様子が見られず、寂しい。授業での頑張りや友達との過ごし方をもっと知りたい。（新木委員）
- ・以前はブログの更新が頻繁に行われていたが、現在は行事の時だけになっており、地域としては寂しく感じる。参観会の日だけでは、普段の様子がわからない。授業中の子供の様子など積極的に公開してほしい。（古山委員）

（いじめ対策について）

- ・校長先生の「さまざまな矢が心に刺さる」の話が印象的。子供の頃から暴力や言葉の暴力について意識して生活することが大切。いじめに関する授業は重要であり、子供が社会に出たときにも役に立つ。（新木委員）
- ・いじめ対応について、丁寧に計画を立てて進めている。全校集会での校長先生の言葉が子供たちに響き、心が育っている理由がよく分かる。心に矢が刺さった後に、その矢を抜いてあげる、誰かのために行動してあげたい、という子が育つことが本当に大事だと感じる。（辻岡委員）
- ・子供の頃から友達との関わり方を教えていくことが大切で、周りも成長する。子供たちが「自分の時間だけでなく、人の時間も大切にする」といった言葉を口にするのは素晴らしい。（石井委員）
- ・いじめ撲滅集会を実際に見学したい。子供たちがいじめについて学ぶことで、大人になってからの虐待問題やハラスメントが減ることを期待できる。（古山委員）

（3）令和7年度学校運営方針の承認

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき学校経営方針について説明があり、来年度の目標や達成するための手立てについて協議した。委員からは以下の発言があった。

- ・地域と保護者の関わりについて、PTA 活動としてできることがあるといいが、自

治会や地域との連携が必要。子供たちのために尽力したい。（新木委員）

- ・ 地域の見守り力が低下しており、保護者や地域住民も多忙で時間が取れない現状がある。旗振りも、子供は車を止めてもらえるのが当たり前ではなく、自分の身は自分で守るために必要な寄り添い方は何かという認識を持つ必要がある。（古山委員）
 - ・ タブレット機器導入により、教育活動が良い方向に進んでいるとのこと、地域とも ICT を活用した健康や安全面での連携を図ることができるといい。（石井委員）
 - ・ 学校運営方針、子供たちをよく観察し、練られている。詳細な説明を受けたが、この場にはいない保護者への伝達方法として何かできることがないか。（辻岡委員）
- 協議の結果、学校運営方針について委員全員の挙手により承認された。

（４）学校運営協議会の自己評価

議長の指示により、副会長の古山委員から、事前に委員から集約した意見をまとめた自己評価案について説明があった。

協議の結果、提案された自己評価について、一同承認した。

その他報告事項等

- ・ 夢育やらまいか事業（CS 加算分）について、教頭から報告があった。
 - ・ 来年度の協議会委員について教頭から報告があり、退任委員の挨拶があった。
 - ・ 来年度の協議会は、本年度同様年４回開催する予定である。
- 第１回 令和７年 ５月９日（金） １４：００～１６：００
- ・ 次回議長について、全員異議なく、石井委員にお願いすることが決まった。